

西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年4月30日現在

今月の重点活動

■水田農業担い手の活動組織 **JAIにしみの営農連絡協議会の設立総会開催**

3月30日、JAにしみの本店において「JAにしみの営農連絡協議会」の設立総会が開催された。平成28年度に6つの農協営農経済センター単位で水田農業の担い手組織が整備され、この6つの担い手組織を束ねるのが「JAにしみの営農連絡協議会」であり、会員合計は211経営体となる。協議会の活動目的は、技術及び情報交流のネットワークづくり、地域農業の活性化、農業者の所得拡大など。協議を経て役員が選出され、会長から「この組織で情報共有と技術交流に取り組んでいく」とあいさつがあった。



【杉野会長のあいさつ】

総会后に、西濃農林事務所長より「農地の集約と生産者の組織化の推進」についてあいさつした他、最後に副会長が「この組織は中山間地、市街化地域、平坦地域の混合チーム。他区域を参考に前向きに活動する」という話があり、閉会した。

多様な担い手づくり

■新規就農者 **岐阜県就農支援センター入所式、第1回西濃地域（海津）就農支援会議**

4月12日、県就農支援センター（海津市）において、冬春トマト第4期研修生4名の入所式が開催された。式では、研修生の紹介、激励の言葉の後、各研修生が抱負を発表した。その後引き続き、第1回目の就農支援会議が行われた。西濃地区での就農希望者は、海津市のトマト後継者とイチゴ生産者の2名であり、就農計画案に対して大筋の確認を行った。

農業普及課は、関係機関と連携して就農に向けた課題及び問題点を解決しつつ、技術習得や就農計画の作成等を支援していく。

■水田農業 **法人の活動を支援（大垣市）**

（農）大垣南は4月8日に上半期役員会を開催し、平成29年の生産事業計画について協議した。取組み品目は主食用米、飼料用米、飼料用稲、水稻苗等である。会議では作付規模、使用資材等を打ち合わせた。農業普及課から主食用米の品質向上、飼料用米の収量確保を指導し、組合せ品目の考え方を提案した。



【トヨタネ農場視察】

（農）わごうは4月10日に役職員研修を実施した。（農）わごうの生産品目は主食用米、小麦、飼料用米、加工キャベツであるが、組合せ品目を探すため、愛知県豊橋市のトヨタネ（株）の研究農場を訪ね、施設野菜の栽培管理を見学した。農業普及課は、研修に向かう車内で水田雑草対策の徹底と飼料用米の収量確保、小麦の赤かび病防除等を指導した。今年の水稲育苗は4月9日に1回目の出荷を済ませている。

売れるブランドづくり

■小麦 生育状況並びに採種ほ場審査（出穂期）

農業普及課は、農協等と連携し小麦の生育調査及び出穂期の予測を行っている。イワイノダイチは4月上旬から、さとのそらは4月中旬から出穂している。調査結果は各生産者に対し赤かび病適期防除の指導に反映している。

また、出穂に伴い、管内の原種ほ場、一般種子ほ場（いずれもさとのそら）の出穂期審査を4月20日に実施した。雑草・異種株ともに、全筆問題はなかった。今年度産の小麦の生育は昨年より遅めで草丈は低く、茎数も少なめに推移していたが、茎数の減少が穏やかとなり、平年並みの数値に近づいている。

■甘長ピーマン 天敵を活用した甘長ピーマンの害虫防除技術の実証と普及

4月17日に、海津市の甘長ピーマンほ場において、新技術導入普及支援事業による展示ほ場を設置した。これは、赤色防虫ネットを設置した施設内において害虫アブラムシを捕食する「ギフアブラバチ」「コレマンアブラバチ」の放飼と、害虫アザミウマを捕食する「ヒメハナカメムシ類」の定着を図ることにより、防除回数の削減を目的としている。併せて、薬剤抵抗性が発現した害虫の防除対策と省力化を図ることが可能である。

農業普及課は、農業技術センター環境部の協力を得ながら現地での実証を行い、2年目の取組みとして普及推進を図る。



【天敵放飼の様子】

■インゲン 目揃会が開催される。「曲がり果対策」を実施中

4月20日に海津インゲン部会の目揃会が開催され、今後の販売方針及び共選出荷規格の確認等が行われた。本年は冬期からの気温が平年並みで、昨年と比較して生育が遅れている。農業普及課からは保温と換気、誘引及び摘葉作業の徹底による障害果対策についての指導と、JA担当者とともに独自GAPチェックリストによる点検を行い、生産工程管理の徹底について啓発した。初夏を感じさせる食材サヤインゲンは、月末頃から本格的な出荷が始まる。

